

ヨブの試練を通しての学び

福島 勲

息子が倒れ私も脳梗塞に

昨年七月、四〇歳になる息子が脳内出血で倒れました。防衛医科大の救命救急医療センターに運ばれ、様々な検査の結果、右脳の一部の血管が損傷し、出血が脳全体を圧迫している状態であり、この状態で手術しても、植物人間の状態になり意思疎通は出来なくなることも承知して下さいとの説明を受けました。

突然の出来事に、私には主にあわれみを乞う祈りしか出来ませんでした。

開頭血腫除去手術は七時間にも及びました。教会の兄弟姉妹に一部始終を説明し、とりなしのお祈りをお願いしました。術後の二日間は昏睡状態でした。

しかし、三日目の朝、眠りから目覚め、私たちの呼びかけにかすかに反応がありました。そのかすかな反応に嫁と孫と私たち夫婦は希望と喜びを感じながら毎日病院に通いました。

あれから一年後の今、手術前の説明に反して、奇跡的に自分で立って歩けるようになり、リハビリを続けています。今なお一部左方麻痺、失語、視野半減、高次脳機能障害等が残っております。検査結果では、これまで白血球内の好酸球値が異常に高かったので、チャージ・ストラウス症候群という難病であろうと教えられました。

現状で会社復帰は困難な状態です。息子は、自分の状態を把握するにつれ、「俺の頭は狂いそうなんだ。お父さん、お母さんには俺の気持ちは分からないだろう」と怒りをぶっつけてきました。私と家内に会うことも拒むようになりました。辛い時でした。

そんな中、今年二月に私も脳梗塞で入院しました。この出来事は、不思議にも発病以来心を閉ざしていた息子が私に心を開いてくることとなりました。

この間、私はヨブ記を読みたくなり、ヨブ記と共に過ごしてきました。私たち

が経験した試練は、ヨブの試練に比べれば蚊に刺された程度のことにはすぎませんが、大きな励ましを受けました。その中で、示されたことを分かち合いたく思います。

わざわいを受けたヨブ

「潔白で正しく、神を恐れ、悪から遠ざかっていた」大富豪ヨブについて、主なる神とサタン（訴える者）が会話する。

神がヨブの信仰を褒めるのを聞いたサタンは、「ヨブが信仰深いのは財産に恵まれているからで、財産を奪ってしまえば呪い出すに違いない」と言い返す。

そこで神はサタンにヨブの全財産を奪い取ることを許す。ヨブは、一万一千頭もいた家畜も、使用人も、すべて殺されたり略奪されたりしたあげく、十人いた子どもたち全員を、大風による家屋の倒壊で一瞬にして失う。しかしヨブは神を呪うことをしない。

「このとき、ヨブは立ち上がり、その上着を引き裂き、頭をそり、地にひれ伏して礼拝し、そして言った。

『私は裸で母の胎から出て来た。また、裸で私はかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。』

ヨブはこのようになっても罪を犯さず、神に愚痴をこぼさなかった」

(ヨブ 1 : 20~22)

サタンは今度はヨブの体を痛めつければ……ともちかけ、神の許可を取ってヨブの全身を悪性のひどい腫れ物で覆う。それでもヨブはあくまでも神を呪わない。

「ヨブは土器のかけらを取って自分の身をかき、また灰の中にすわった。すると彼の妻が彼に言った。『それでもなお、あなたは自分の誠実を堅く保つのですか。神をのろって死になさい。』しかし、彼は彼女に言った。『あなたは愚かな女が言うようなことを言っている。』

私たちは幸いを神から受けるのだから、わざわいをも受けなければならないではないか。』ヨブはこのようになっても、罪を犯すようなことを口にしなかった」

(ヨブ 2 : 8~10)

そこへヨブの三人の友人が見舞いに訪れる。彼らはヨブを慰めに来たはずなのに、ヨブの嘆きを聞いているうちに、神を冒瀆していると思ったのか、ヨブを批判し始める。

ヨブの災難は、ヨブが神に対して何か隠れた大罪を犯したからではないか。早くそれを認め、神と和解しなさいと因果応報の原理で責め立てる。

ところが、ヨブが断固として、自分はこの災難に遭うような大罪は犯していないと主張したため、友人たちとの長い長い議論が始まる（同3：1～31：40）。

贖い主キリストの啓示

ヨブは友人たちによる断罪を受ける中で贖い主キリストへの信頼を告白しています。

今でも天には、私の証人がおられます。私を保証してくださる方は高い所におられます。私の友は私をあざけります。しかし、私の目は神に向かって涙を流します。その方が、人のために神にとりなしをしてくださいますように。…（ヨブ16：19～21）

私は知っている。私を贖う方は生きておられ、後の日に、ちりの上に立たれることを。私の皮が、このようにはぎとられて後、私は、私の肉から神を見る。この方を私は自分自身で見る。私の目がこれを見る。…（ヨブ19：25～27）

その贖い主に信頼をおいた信仰で神に大胆に訴えています。ヨブは、「神に逆らう者が幸福に暮らし、平穏な一生を終える一方で、神に従う者が不幸のどん底に突き落とされて顧みられないのはなぜか？」と問い、神に直接自分の言い分を申し立てたい、と嘆いているのです。

友人たちは友人たちでいきり立ち、ヨブの不幸の源泉は、ヨブの罪にあると決めつけるのをやめない。議論が行き詰まった所で、若いエリフが友人三人に代わって語り続け、最後に神があらしの中からヨブに語りかける。

主の御顔を見るヨブ

神は最後までヨブの「なぜ神に心から従う者が苦難に遭うのか」という問いには直接答えてはられません。ただ小さな存在でしかない人間に対して創造主なる神のみわざ、その偉大さを様々な例を挙げて示されます。

「わたしが地の基を定めたとき、あなたはどこにいたのか。」との質問から始まって、地球の創造と海や天体に関して、気象や星について、そして最後にいろいろな種類の動物について語られます。ヨブは納得します。

なぜここで、簡単に納得したのでしょうか。なぜ神にそれまで叫んでいた不平不満を訴えないのでしょうか。その理由をヨブの言葉から知ります。

あなたには、すべてができること、あなたはどんな計画も成し遂げられることを、私は知りました。 (ヨブ42:2)

神にはすべてができるのだと知った時、苦しみがヨブにとって、死んでしまった子どもたちにとって、また妻にとっても、良いように働くのだと信じることができました。苦しみや死を、神を愛する人にとって良いものに変えることは、神には不可能ではないと知るに至ったのです。これは、まさにロマ書8章28節の信仰とも言えましょう。

神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。 (ロマ8:28)

ここで、私が今回特に学ばせていただいたことは、次のことです。誤解しないで頂きたいのですが、私たちが神を礼拝するのは、神が私たちに恵んで下さるから、救ってくださるから、何々して下さるお方だから、というのは御利益信仰の域を出ていないということです。

私が神を礼拝するのは、たとえ神が私を恵んで下さらなくても、創造主なる偉大な力ある神であるということだけで、神は神として礼拝され、賛美されるべきお方であるということです。被造物にすぎない私たちはたとえ身に災いを下されたとしても、神は礼拝すべきお方として変わりはないということ。

私はこれまで、神は愛なる方、私たちを救ってくださる方、だから賛美・礼拝すべきだと考えてきました。ここには条件付き・打算的なものがあります。神が無条件で私たちを愛して下さっておられるように、私たちの礼拝も無条件であるべきということです。

ヨブは続けて言います。

私はあなたのうわさを耳で聞いていました。しかし、今、この目であなたを見ました。 (ヨブ42:5)

以前のヨブは神をうわさで聞いて知っていた程度だったと言うのです。しかし今、ヨブは謙虚にされ、自分をさげすみ、ちりと灰の中にありながら、あなたを見ました、と言っているのに驚かされます (Iコリ13:12)。

それは、御声を聞く中で、霊の目をもって見たのでしょう。偉大なる力に満ちた創造主なる神の語らい、ヨブがずっと慕っていたお方とのこの上ない愛の交わりへと至ったのでしょう。これこそ試練を通してヨブに与えられた至宝と言えるものではないでしょうか。さらに素晴らしい祝福 (同42:10~17) も記されていますが、それらは付録と言えるものではないでしょうか。

見なさい。耐え忍んだ人たちは幸いであると、私たちは考えます。あなたがたは、ヨブの忍耐のことを聞いています。また、主が彼になさったことの結末を見たのです。主は慈愛に富み、あわれみに満ちておられる方だということです。(ヤコブ5:11)